

情報連絡員報告総括表（令和3年9月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況							
	増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化					
製 造 業	食料品		3	1	1	3		1	3		1	3			4		2	2		4			4			1	3					
	繊維工業	1		2		3			3			2	1		2	1		2	1	1	1	1	2	1		1	2					
	木材・木製品	1					1	1			1			1			1		1			1			1							
	紙・紙加工品			2		1	1		2			2			1	1		2			1	1	2			1	1					
	印刷		1			1			1			1			1			1			1		1			1						
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品	1	1	1		3			3			3			3			3			3		3			3						
	鉄鋼・金属	1				1			1			1			1			1		1		1			1							
	一般機器	1	1	1	1	1	1	1	2			3		1	1	1	1	2		1	1	1	3			2	1					
	電気機器			1			1			1					1				1			1			1							
	輸送機器		1				1		1				1			1		1				1	1			1						
その他																																
小計	5	7	8	2	13	5	3	16	1	2	16	2	2	9	9	1	15	4	4	11	5	2	16	2	2	10	8					
非 製 造 業	卸売業		2			2		2			2			1	1		2		X				2			1	1					
	小売業		1	5	1	4	1	3	3		4	2		2	4		2	4							6			3	3			
	商店街			1			1		1			1			1			1								1			1			
	サービス業	1	2	2	X				5		5		1	2	2		4	1								4	1		4	1		
	建設業		3	1					1	3		2	2		2	2		4										4			3	1
	運輸業			1						1		1		1		1		1					1					1			1	
	その他	1								1		1		1		1		1					1					1			1	
小計	2	8	10	1	6	2	4	16		15	5	1	9	10		14	6				18	2	1	12	7							
合計	7	15	18	3	19	7	7	32	1	2	31	7	3	18	19	1	29	10	4	11	5	2	34	4	3	22	15					

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和2年9月～令和3年9月)

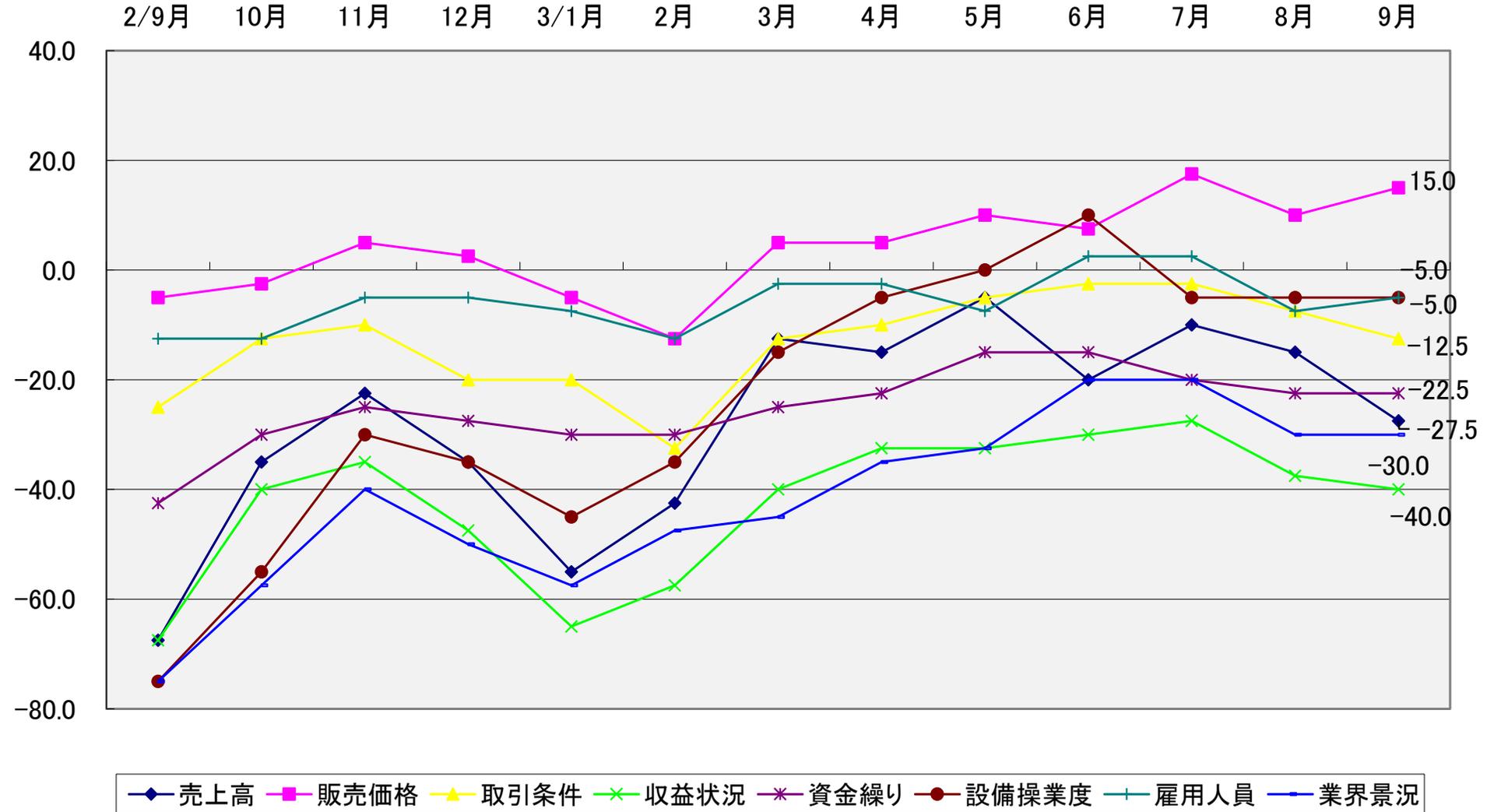
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40 名

	2/9月	10月	11月	12月	3/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	増減
売上高	-67.5	-35.0	-22.5	-35.0	-55.0	-42.5	-12.5	-15.0	-5.0	-20.0	-10.0	-15.0	-27.5	-12.5
販売価格	-5.0	-2.5	5.0	2.5	-5.0	-12.5	5.0	5.0	10.0	7.5	17.5	10.0	15.0	5.0
取引条件	-25.0	-12.5	-10.0	-20.0	-20.0	-32.5	-12.5	-10.0	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-12.5	-5.0
収益状況	-67.5	-40.0	-35.0	-47.5	-65.0	-57.5	-40.0	-32.5	-32.5	-30.0	-27.5	-37.5	-40.0	-2.5
資金繰り	-42.5	-30.0	-25.0	-27.5	-30.0	-30.0	-25.0	-22.5	-15.0	-15.0	-20.0	-22.5	-22.5	0.0
設備操業度	-75.0	-55.0	-30.0	-35.0	-45.0	-35.0	-15.0	-5.0	0.0	10.0	-5.0	-5.0	-5.0	0.0
雇用人員	-12.5	-12.5	-5.0	-5.0	-7.5	-12.5	-2.5	-2.5	-7.5	2.5	2.5	-7.5	-5.0	2.5
業界景況	-75.0	-57.5	-40.0	-50.0	-57.5	-47.5	-45.0	-35.0	-32.5	-20.0	-20.0	-30.0	-30.0	0.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	食料品	漬物	原料用野菜は長雨の影響により生育不良となり、年末にかけての原料生産量不足が懸念されている。生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足は続いている。そのため、伝統的な漬物においても原料不足のため、代替原料による新たな商品開発の試みが行われている。また販売状況においても、コロナウイルスに関わる外出自粛の影響により、駅、土産物店等でお土産物の漬物の販売及び外食産業での需要が更に減少している。
		醤油味噌	9月は緊急事態宣言下で、相変わらず景気が低迷している。10月の緊急事態宣言解除後の回復を期待したい。
		豆腐	豆腐油揚げの原材料の大豆、食用油が高騰しており、収益が悪化している。
		製麺	この一ヶ月は緊急事態宣言が発令され、観光関係は売上が低迷している。緊急事態宣言が解除され、人が動き出すと事態は急変するであろう。これらも踏まえて、次の体制を取っていくつもりでいる。資金調達の方法も考えつつ、設備投資に取り組んでいきたい。また、組合間の連携を取りながら、この難局を乗り越えていく覚悟である。
	繊維工業	衣料縫製	今後の市場動向に期待したい。
	木材・木製品	木材	ウッドショックにより、依然として国産材に対する需要は旺盛で、前年同月比では原木、製品共に高値で推移している。
	紙・紙加工品	紙器段ボール	9月も引き続き半導体不足で、自動車、電機関係の生産量が落ちている。また、多雨の影響で野菜や果実にも影響が出ており、集荷量が少ない。それに伴い、段ボールや紙器箱の出荷も減少している。
		古紙	9月期の古紙仕入量は：段ボール・約99±5%、新聞、チラシ・約94±10%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約92±10%の模様である。コロナ感染症の緊急事態宣言でも昨年より巣ごもり片付けが集団回収の開催が持去り防止効果なのか分からないが、新聞・雑誌古紙の集荷が前年より良い所もある様である。ワクチン安心感とストレス発散需要による秋需に期待が持てそうである。通勤や対策済みの飲食店等であっても密にはなるため、完全な感染防止とはならず、ピークを繰り返しながら収束するよう思う。まだ治療薬が少なく、安価で効果がある経口薬の流通が待たれる。素材価格や食料等の高騰・上昇を取り沙汰され業績の良い業種やバランスの取れている業界等のボーナス支給の上昇が待たれる。資源物回収所のゴミの不法投棄は増加し、古紙や古着の持去り行為も無くならない状況である。
	印刷	印刷	2022年版三重県民手帳は、昨年同様コロナ禍での製作になった。企画会議や取材等が困難な中、無事完成の運びとなった。情報公開が解禁となり、10月6日(水)の発売に向けて広報活動を行っている。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は8月同様であったが、自動車関連部品に関しては半導体の不足、コロナ禍での東南アジアにおける生産量の減少が原因で、国内生産も減少といった部分があった建築関連部品、ガス関連部品、電気関連部品はほぼ同様であった。半導体関連部品は更に増加傾向にあり、人材不足は継続しており、人材派遣に依存している。この状況は今年いっぱい続く予測されている。
一般機器	四日市	9月30日に緊急事態宣言が解除された。感染者数が全国的に減少傾向にある事は嬉しい事だが、このままコロナが終息するとは思えない。むしろ、また人流が増えて、リバウンドのない事を祈るばかりである。組合員一同も各々が懸命に努力し、経営に苦心している。	
	津市	某企業の生産調整の影響で、車載関連の受注が減少してきた。昨年同様に2~3ヶ月遅れて受注が減ってきている。それに加えて材料の入手も遅れているので、製造業にとっては厳しい状態である。東南アジアでのコロナウイルス感染が落ち着くまでは、この状況が続くのではないかと危惧している。	
	伊勢	全国の緊急事態宣言とまん延防止重点等措置が解除され、日本の内閣総理大臣が交代した。新体制になり、いろいろな支援が期待される。政府発表でも直ぐにはいかないが、徐々に規制解除となると言われている。人の動きも自由になり、経済活動も活発化されると思う。10月以降の売上上昇を期待している。	
電気機器	鳥羽	受発注とも低迷しており、昨年同月比で35%ダウンした。鋼材関連の非常な値上がりもあり、厳しい状態は続いている。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
	輸送機器	鈴鹿 この数ヶ月間、自動車メーカーの一部では部品の供給不足で生産調整を余儀なくされているが、当月はやや持ち直しているように見られる。一方で、モノの不足感からか資材の値上がり相次いでいる。生産設備で使用している潤滑油や切削油等の油脂類や、修繕に使用する部品等も以前よりも15～30%程度の値上げが提示されている。	
非 製 造 業	青果	野菜前半：8月の悪天候の影響で高値が続いている。全体的に入荷が少なく、なす、ミニトマト等は特に入荷が少ない。また、長野産、群馬産のキャベツは小玉が多い。レタス、白菜は長野県での降雹被害があり、値上がりした。野菜後半：全体的には高値が続いていたが、相場が落ち着き、きゅうり、トマト、ミニトマトは価格が下がった。ほうれん草、小松菜も入荷が増え、値下がりしている。秋なすは、今が食べ頃で、入荷も増えお買い得である。 果物前半：りんごは長野産のサンつがるを中心に青森産も入荷し、小玉がお買い得である。梨は長野産の幸水が終盤で、豊水に入れ変わっていく。人気の山梨産シャインマスカットは露地物がピークを迎えており、値ごろ感のあるバック入りも増えてくるだろう。 果物後半：県内産を中心にみかんの入荷が増えてきた。りんごは長野産の秋映がピークである。種なし柿は、和歌山産の刀根柿も入荷している。長野産のシャインマスカットは生育の遅れにより値上がりしている。	
	自転車	自転車需要が高まる季節で、学校は2学期が始まるもコロナウイルスによる緊急事態宣言が9月末までとなり、リモート学習等によって自転車を利用する機会も大きく減少した。人の流れがなくなる事により、自転車を購入しようとする方、修理をしようとする方はほとんどない。よって、多くの店舗売上は、対前年比-50%以上となっている。また、運送費の高騰により今後、商品、納入価格の上乗せが心配される。10月1日からの県条例「自転車損害賠償保険加入の義務化」が新聞紙上、市報等に載せられたため、点検やTSマーク付帯保険加入の申し込みが今月下旬にかかかって多く見られた。月末には2022年モデルの商品が発表となり、緊急事態宣言解除以降に期待したいところである。	
	小売業	電器	9月の販売も大変苦戦し、単月では前年を大きく落とした。4～9月累計でも苦戦中である。特に主力商品のエアコンの販売が8月の長雨以降9月もまったく振るわなかった。また冷蔵庫・洗濯機の販売も予想以上に苦戦した。オリンピック開催で4K・8K対応のテレビの販売は伸びは、対前年を上回るが全体の販売を引き上げるまでではなかった。長引くコロナ禍の中需要が大変厳しくなってきた。これまでテレワークや巣ごもりと新たな環境にも敏感に対応してきたが、そうした中で耐久品である主力家電商品で販売を引っ張ってきたが、ここに来て主力家電商品の販売苦戦が目立つ。ただ、リフォームの取り組み店は今後期待が感じられる。長引くコロナ禍の中で訪問活動を控えていることもあり、催事のあり方も変わってきている。催事に工夫と手間をかける店とそうでない店の販売格差が大きくなり二極化が進んでいる。在庫は実需とのタイム差があるが全体としては増えつつある。長引くコロナ禍の中で需要の低迷が厳しさを増し、見通しは非常に厳しい状況が予想されるが、電器店は店主の高齢化による販売ダウンが課題で、業界の中でも地域電器専門店はこの課題への対応と後継者問題が大きな問題となっている。
	石油	業界はカーボンニュートラルや2035年目標のガソリン車新車販売禁止などで揺れている。国がEV化で浮足立っていても、我々業界は安心安全な暮らしを維持して行くために、石油やサービスステーションの存在が必要であるとまだまだ広く社会に訴え、国民世論を味方につけて行くことが大事だと考えている。カーボンニュートラルと言う響きはいいが、石油に代わるエネルギーでEV社会の実現など本当にできるのか。政府も我が国主力の自動車産業を守り抜くため、欧米に流されるのではなく国際社会に理解を得ていく国策をいまこそ執ってほしい。我々サービスステーション業界も自動車産業界と結束し、メディアも含め広く社会に理解を求めていく努力を重ねるべきである。とにかくサービスステーションがこのまま無くなってしまふような動きは絶対に阻止しなければならない。	
	スポーツ	新内閣総理大臣が決まった。コロナも下火のようであり、10月から学校も始まる。クラブ活動も再開するであろうから、当組合員の店へも生徒達が来店してくれる事であろう。年末には元に戻っている事を期待する。	
商店街	熊野市 県内の緊急事態宣言により、飲食店関係の休業や時短があった結果、食品や酒類等他の業種にも影響が大きかった。また居酒屋等、飲食店のテイクアウトが増えた結果、既存の弁当屋さんが売り上げが落ち、9月に廃業となった。こうした元々テイクアウト専門とする店舗については、協力が支給されていない結果、現在相当厳しい状況に追い込まれているものと考えられる。今後は何かしらの支援策を打つことが必要である。		

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
サービス業	旅館	緊急事態宣言が発出されてから、9月の予約は全く入らなくなり、開店休業状態に陥った施設が多く、コロナ禍に入ってから昨年の5月(GWの休業を回事より要請があり、5月中休業の施設が多かった)に次ぐ厳しい状況が続いていた。また「とこわか国体」の中止により、予約を引き受けていた施設は、大量の客室押さえが解除され、見込んでいた売上が蒸発してしまい、困惑していた。県内県外の計270施設で、宿泊者数は延べ20万人泊であった。この件について県が保証金の支給を早く決定していただいたので、小規模施設は一息ついた感があったようである。
	測量	官庁からの発注量は例年並みである。民間においては30%減少である。
	警備	官公庁の工事発注増のため、警備の需要が増え、受注が多くあるが、警備員の増員が困難なため、大幅な収益増とならない現状である。
建設業	総合工事業	令和3年8月末までの県内企業の公共事業受注状況は、前年度期間と比べ約6%の増となっており、今年度上半期の受注状況は昨年並みが確保できると想定される。昨年度の下半期の受注額は、2月の大型補正により、上半期受注額の約55%が確保されたことから、今年度も下半期において、大型補正の実施がなければ、下半期における一定量の受注が期待できず、年間受注量の大幅減少となる懸念がある。このような状況の中、建設工事の主要資材である鋼材単価が名古屋地区において、値上がり傾向にある事への注意が必要である。
	内装工事業	9月は対前年比でマイナスとなった。もともと、前年同月の売上は少なかったため、今年も同じ程の売上となると予想していたが、コロナの影響によるものなのか、大幅な減少となった。業界は厳しい状況が続いている。
	水道工事業(亀山)	ここ数ヶ月ですます資材の入手が困難な状況である。特に個人用、衛生用品(便器、ウォシュレット)、給湯機器は入荷に2~3ヶ月以上かかる。また、資材価格も製品によっては毎月値上がりする物もある。
運輸業	トラック	燃料価格は高止まりの状態が続いている。電子部品、デバイスは堅調な需要が見込まれる事から、関連する輸送も好調を維持している。化学、プラスチック関連の輸送についても前月に比べ増加である。自動車関連の輸送は半導体不足やコロナ禍による東南アジアからの部品供給が一時停止した影響により、引き続き厳しい状況が続いており、回復には時間を要する見込みである。スーパー関連の輸送は引き続き減少している。住宅関連は好調に維持している。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	助成金等の情報も教えて下さい。
一般機器	四日市	新しい内閣総理大臣が一年で誕生した。期待はしないが、コロナ対策と企業への給付と援助を続けてほしい。
サービス業	旅館	「県民割」の早期復活と「Go Toトラベル」はまだ先のようななら、「近県割」を愛知、三重、岐阜位で話し合って実行してもらいたい。また、金融支援を受けないと持続不能の施設も出てくるため、具体的な金融支援策が早く出される事を求める。
	測量	後継者育成の促進等、組合員の緩やかな成長を望んでいる。